

令和3年6月21日（修正）

## 課題施工要領書

### 〈共通事項〉

#### （1）注意事項

- ・ 実行委員の指示のもと、「作業開始」・「作業終了」の行動を共にする。
- ・ 各工程の標準時間から 10 分経過した時点で作業を打ち切りとする。
- ・ 材料および不都合が発生した場合は、速やかに実行委員・審査委員に連絡すること。
- ・ 架台周辺の整理整頓に心掛ける。
- ・ 安全作業に心掛ける。
- ・ 競技中、工具の貸し借りは禁止する。

#### （2）準備・点検

- ・ 事前に審査委員の指示により架台の点検を行い、寸法の修正やねじれ等がある場合は、申し出て確認のサインをもらうこと。
- ・ 支給された道具・材料を確認すること。異常のあるときは競技前に申し出ること。
- ・ 持参工具の展開は会場下見の時に行う。
- ・ 電動工具(丸ノコ)の使用を禁止する。充電ドライバーの使用は可とする。

#### （3）墨出し

- ・ 中心墨、陸墨は床パネルから測り各自で出すこと。  
陸墨は床パネルから 1,020mm 上がり（洗い出し蛇腹下端）の位置を基準とする。
- ・ 家紋中・外及び正面右腰壁の中塗り墨は必ず出すこと。
- ・ 逃げ墨,下地墨,仕上墨は、必要に応じて出してもよい。
- ・ 墨出し用レーザーの使用は可とする。
- ・ 丸柱の墨出し用型板の持ち込みは可とする。（なお、その型板は材料を刷り上げる用途としては使用不可とする。）
- ・ 墨出しは、会場に用意された定木のみを使用すること（自身であらかじめ用意した定木の使用は不可とする。）

#### (4) 糸張り

- ・角の糸張りは、仕上げの基準となるので念入りに行う。
- ・袖壁小面の塗り分け目地は、糸張りをを行い、GL ボンドで溝目地を取り付ける。
- ・袖壁は角に2本糸張りをする。
- ・丸柱の糸張り方法は自由とする。

#### (5) 石膏置引き

- ・引き型は、課題図面に基づき事前に用意する。
- ・材料の無駄をなくす工夫をする。
- ・角の欠けや型傷の無いように仕上げる。
- ・置引きを行うとき、作業台の片側だけでなく両側を使用してもよいが、作業台を持ち込むなどしての継ぎ足しは不可とする。
- ・置引き残土用容器等は各自で用意してもよい。
- ・石膏の流し込みによる工法は不可とする。
- ・置引きで使用する洗い用バケツは、主催者が用意したものを使用する。

#### (6) 置引き取り付け

- ・置引き加工後、図面寸法どおりに割付をする。
- ・割付寸法どおりに加工する。(加工するときの「止め切り」の使用は可とする。)
- ・自身で用意したあらかじめ寸法の入った型を使用して加工することは不可とする。
- ・置引きの取り付けは、正面中心墨からの振り分けで行う。
- ・貼り付け材は、GL ボンドまたは焼石膏を使用する。  
自身で用意した貼り付け時の「うけとんぼ」の使用は可とする。その形状・素材・数量は自由とする。
- ・置引き取り付け後はビス止めを行う。

#### (7) 定木の取り外しについて

- ・その日の作業終了時ごとに、定木を取り外しておくこと。

#### (8) 養生

- ・床養生の方法は自由とし、各自用意しておく。
- ・マスキングテープ(幅 18mm 以下)の使用は可とする。

#### (9) 清掃

- ・課題内の清掃は、時間内に終了させる。
- ・課題外の清掃及び片付けは、時間外も可とする。

## 〈各所部位〉

### (A) 天井見付

- ・置引きは、正面2本、側面1本ずつ、計4本製作する。
- ・焼き石膏置引きを張り付けし、留め補修とする。

### (B) 天井

- ・天井見付の置引きと架台の隙間を GL ボンドまたは焼石膏で詰める
- ・天井上塗り材を2回塗りし、鏝むらをよく取り、無地仕上げとする。

### (C) 正面左壁

- ・ジョイント処理および下塗りは、  
日左連発行の「現代しっくい施工講習会テキスト」にならって行うこと。
- ・上塗り材を塗り付け、テクスチャー仕上げとする。
- ・テクスチャーは、持参道具の中から使用して自由につける。
- ・上塗り材以外の材料を混入することは不可とする。

### (D) 家紋・家紋中・家紋外

- ・家紋中、家紋外の中塗りは2回塗りとし、鏝むらがないようにする。
- ・石膏置引した家紋を貼り付ける。
- ・家紋中は上塗り材を塗り付け、鏝むらをよく取り仕上げる。
- ・家紋外は上塗り材を塗り付け、角は6mm丸面とし塗りまわして、  
鏝むらをよく取り仕上げる。
- ・石膏部材とのチリ回りは汚れがないようにする。

### (E) 正面右腰壁

- ・3段の鎧壁漆喰仕上げ（色：上から白、黒、白の順）とする。
- ・施工手順
  - ・1日目 鎧壁の割り付け及び墨出し  
傾斜を作りながらつけ送り ※詰め込み工法も可とする
  - ・2日目 中塗りは、測りながら2回塗りとして、鏝むらがないようにする
  - ・3日目 上塗り材を測りながら2回塗りとし、鏝むらをなくし仕上げる。
- ・角は突角（とっかど）にして、鏝ざらいでおさめる。

(F) 正面右腰見切り

- ・中塗り材で中塗りをする。
- ・架台に墨を打ち、走り定規を打ち付ける。
- ・引き型は、図面にに基づき事前に用意する。
- ・セメントペーストを塗り、追っかけで大磯石を塗り付け、洗い出し蛇腹現場引き用の型を引き、石が均等に揃うように伏せ込み、刷毛洗いとする。
- ・洗い出し蛇腹現場引きは、すべて現場引きを行うこと。

(G) 袖壁内

- ・下地処理は、ジョイント処理と全面シーラー塗布を行う。
- ・上塗り材を塗りつけてスチロールまたは木鋸を使用して仕上げる。

(H) 袖壁外

- ・チリ塗りは、2回塗りとし、チリ際をしっかりと押さえて塗りつける。
- ・角測りに使用する和紙（幅約4 cm）を、水で濡らし手でちぎる。
- ・角塗り材をこすり、定木を使用して鋭角をつくる。
- ・角から幅2 cm ずつ分けて和紙を張り付け、突角をつくる。
- ・平面は切り返し仕上げとする。

(I) 丸柱

- ・上塗り材を均一に塗り付ける。
- ・丸柱の形状は、円筒になるように留意する。
- ・硬化状態を見計らい、掻き落とし器で掻き落とし、刷毛で掃き仕上げる。
- ・目地は掻き落とさず残す。

(J) 擬石

- ・色セメントモルタルを塗り付け、鋸・刷毛等の道具を使用して擬石調に仕上げる。
- ・テクスチャー・着色は自由。色粉は持参すること。
- ・大きさは自由だが、床ボーダーにかからないようにすること。

(K) 巾木

- ・支給された黒セメントモルタルを2回塗りとし、鋸むらがないように仕上げる。

(L) 床ボーダー

- ・図面に従って墨を打ち、墨に合わせて定木を打つ。
- ・下塗り材をこすり、下地をつくる。

- ・セメントペーストを塗り付け、追っかけで砂利を塗り付け、石が均等に揃うように伏せ込み、刷毛洗いをする。
- ・外角は6mm丸面に仕上げる。
- ・床ボーダーの受け定木（厚12mm）は、作業終了時に外すこと。

(M) 床

- ・新黄華砂利（3分）を敷き込み、底が見えないように均等に敷き込む。